

魚沼市におけるミチノクサイシンの新産地 2箇所

魚沼市千溝 富永 弘

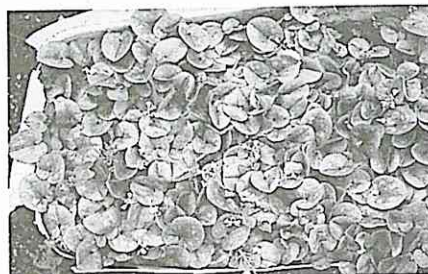
ミチノクサイシンは、日本のカンアオイ属の中では最も北方に生育する種類であり、信越地方以北に分布する。藤沢によれば、新潟県内の分布は、朝日村、村上市、関川村、笹神村、入広瀬村、小出町とされ、新潟県レッドデータブックでは、岩船、北蒲原、北魚沼に生育すると記されている。

魚沼市原虫野は、新潟県内でも数少ない産地の一つとして知られているが、新たに確認された魚沼市内の2か所の生育地について報告する。いずれも広い魚沼市の中の人口密集地に近く、既知の産地からもそう遠くない場所である。

新たな産地のうちの一つは、魚沼市小出地区の魚野川右岸であり、標高は約120m。原虫野と同じように杉林の下であって、地下水の湧出が見られる場所である。スギの他にサワグルミやトネリコ等の水気の多い場所に生育する木本が見られ、サカゲイノデ、ダイコンソウ、エンコウソウ、ホクリクネコノメ等が生育している。もう一方の新産地は、湯之谷地区の佐梨川右岸である。ここもスギ林下の湿地で、標高は約130mである。高木層としてスギの他にブナやハウノキが見られ、付近には、ユキツバキ、ウワミズザクラ、コバギボウシ、ヒメザゼンソウ、カサスゲ、ヒメシロネ等が生育する。また、2-3株ではあるが、魚沼市でも深山でないと見られないタチアザミが生育していて興味深い。

既知の原虫野を含め、魚沼市内3か所のミチノクサイシンの生育状況は良好に見えるが、生育面積はいずれも小さい。3か所とも人家に近く、わずかの改変により簡単に絶滅が予想される脆弱な環境下にあり、これらの生育地が保全されるように注視していきたい。県内稀産種ではあるが市内のほど近い3か所に生育し、他でも発見される可能性を念頭に地域の植物観察を続けていきたいと思っている。

魚沼市内に、数百のカンアオイの鉢をもつ方がいると聞いて訪問してみた。玄関付近や家の周囲には、コシノカンアオイ、ミチノクサイシン、ユキグニカンアオイ等の鉢が所狭しと並べられていた。驚いたことは、ミチノクサイシンが普通土のプランター内で旺盛に生育していたことである。さらには、無造作に投げ置かれたミチノクサイシンが、畑の一角で元気よく繁茂していた。畑の持主は、「父親がこんなものを畑に投げるから、はびこってどうしようもない」と嘆く。自生地を知る者にとっては信じがたいような光景であり、深く印象に残っている。このように繁茂するのであれば、もっとあちこちで目にしてもよさそうに思えるのだが・・・。



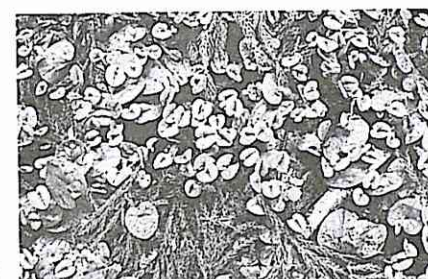
写真①



写真②



写真③



写真④

写真：撮影は何れも08年4月25日魚沼市内

- ① プランター内のミチノクサイシン
タネツケバナやスギナと競争して負けていない。
- ② 畑の片隅で旺盛に生育するミチノクサイシン
スギナ、ヒメオドリコソウ、ムラサキサギゴケ、メマツヨイグサ等に負けずに生育している。
- ①・②以外は、湯之谷の生育地

文献

- 1 佐竹義輔ほか、1982、日本の野生植物 草本篇2 離弁花、平凡社
- 2 藤澤正平、植物と自然、1983、17(7)、p42-43、ニューサイエンス社
- 3 新潟県環境企画課、レッド・データブックにいかた、2001、新潟県